

四谷大塚	4年		
	算数		
学習内容	夏期講習 小数のかけ算とわり算 分数のたし算とひき算 分数のかけ算とわり算 がい数 差の集まりを考える問題 ご石をならべる問題 いろいろなならべ方 いろいろな組み合わせ方 など		
家庭学習ポイント	夏期講習では、既習単元の復習に加え、新出単元としてはおもに計算と概数、そして規則性に関する問題と場合の数など、全体として数の性質に関する問題を中心に授業が行われます。概数や場合の数など講習会以外でおもな学習機会がないことや、講習会自体は8月前半で終了するものの、8月後半には「8月特訓」と呼ばれる講座があることなど、4年生としては他塾とくらべて非常に大変なカリキュラム、スケジュールになっていることに注意が必要です。4年生後半（9月～）も計算に間してじっくり習う機会が殆どないことから（9月第1回授業「小数と分数」のみ。こちらは応用内容になります）、夏期講習での「小数のかけ算とわり算」「分数のたし算とひき算」「分数のかけ算とわり算」は完全に消化しておきたいところです。また8月10日に夏期講習会が終わってから、8月特訓が始まるまでの5日間の休みに、夏期講習で残った課題と2回のテスト直しをしっかりとっておくこともポイントになります。		
課題の把握と解決策	チェック1	小数のかけ算、わり算を正確に計算できていますか？	チェック
	解決策	特に小数でわるわり算には注意しましょう	□
	チェック2	約分、通分を正確に行うことができますか？	チェック
	解決策	今ひとつ理解が悪い場合は、予習シリーズ上第16回、17回「約数」「倍数」の復習を	□
	チェック3	夏期講習でしか学習しない内容を把握できていますか？	チェック
	解決策	夏期講習自体が年間カリキュラムの一部である（復習内容ではない）と理解しておきましょう	□
	チェック4	7月末のテストの直しはできていますか？	チェック
	解決策	できていることとそうでないことを把握し、お盆休みに消化しましょう	□
	チェック5	夏期講習の学習サイクルが「まわって」いますか？	チェック
	解決策	とにかくこなすことが目的にならないように、ターム終了ごとに振り返りをしておきましょう	□
四谷大塚	4年		
	国語		
学習内容	夏期講習 物語・小説（1）（2） 説明文・論説文（1） 表現・要約・意見作文など		
家庭学習ポイント	夏期講習では、1学期に学習した「物語文・小説」と「説明文・論説文」の読み取り方の復習、そして比喩など表現に関する学習、論説文での要旨の読み取りと要約と記述、作文などの学習が中心になります。物語文では1学期に学んだ「場面の転換」や「できごとと心情のつながり」などに注目する読解の基礎を復習します。4年生前半が終了しようとしている今、まだ「読んで内容が理解できればOK」という読み方をしているお子さんは、そろそろ「読解の技術」を使って問題を解くという経験をこの夏にしてみるいい機会になるでしょう。また漢字の学習に関しても、成り立ちを考える、へんかつくりの意味を考える、例文の中で記憶するなど体型だった学習ができているかどうか、ぜひ見直してみてください。講習会の授業で扱われる論説文・説明文の読解と要旨の読み取り、要約と記述の練習にもしっかりと取り組んでみてください。		
課題の把握と解決策	チェック1	論説文や説明文の「論旨」が読み取れていますか？	チェック
	解決策	特別な言い切りの言葉などに注目して読んでみましょう	□
	チェック2	物語文では場面の変化、情景描写から登場人物の心情を読み取ることができますか？	チェック
	解決策	登場人物に感情移入するだけの主観的な読み取りは（今後特に）危険です	□
	チェック3	語彙を増やす努力をコツコツ続けていますか？	チェック
	解決策	夏休みも漢字や語句など「ルーティン」の学習習慣は崩さないようにしましょう	□
	チェック4	8月11日～15日の使い方が決まっていますか？	チェック
	解決策	まとまった休みはここしかありません。4年生は遊びのメニューもしっかりとってあげたいですね	□
	チェック5	7月のテストの直しはできていますか？	チェック
	解決策	特に記述問題など、ていねいに直しをしておいてください	□

四谷大塚	4年		
	理科		
学習内容	夏期講習 もののあたため方・光の進み方・星座の1日（1年）の動き 実験器具の使い方・表とグラフを読む 太陽と月・植物・物質の成り立ち 地形の作り方・電気 など		
家庭学習ポイント	四谷大塚の夏期講習は1学期の復習内容と予習内容の折衷になっており、どちらかといえば予習に重きを置いた内容です。算数のように「夏期講習で習った内容が今後出てくることはない」といったカリキュラムになっているわけではないですが、日能研などのように純粋な復習内容ではないため「1学期にあやふやだった単元をじっくり夏に挽回」というほどじっくりとは取り組めません。また8月後半に行われる「8月特訓」も必修なので、まとまったお休みは8月11日～15日のお盆期間のみ。4年生としては非常にタイトなスケジュールです。夏期講習中はタームごとの1日の休みに振り返りの機会をとり、2タームごとのテストで状況を把握しましょう。「手薄」なままだと判断できる単元は、ターム間の休日やお盆休みにテコ入れすることがポイントです。夏期講習では実験器具の使い方や表とグラフの読み取り方など、普段の授業ではあまり時間をとることがない分野も学習します。ある意味入試のみならず普段の理科の学習に直結する内容ですので、しっかり身につけるようにしましょう。		
課題の把握と解決策	チェック1	夏期講習の学習サイクルは「まわって」いますか？	チェック
	解決策	「こなすこと」に忙殺されないよう、タームごとの1日の休みを大切に使いましょう	□
	チェック2	グラフや表などの読み取りは得意ですか？	チェック
	解決策	ここが苦手にならないよう、しっかり慣れていきましょう	□
	チェック3	実験器具の使い方についての記述問題に正しく答えられていますか？	チェック
	解決策	実験器具を使う上での最大のポイントは「安全」です	□
	チェック4	太陽・月・星の動きを考える際、自分で図を書いていますか？	チェック
	解決策	算数同様、手を動かすことがポイントになる分野です	□
	チェック5	忙しい夏休みですが「遊び」のメニューも用意していますか？	チェック
	解決策	他塾に比べてもかなり忙しいですが、ONとOFFのメリハリをつけて取り組みましょう	□
四谷大塚	4年		
	社会		
学習内容	夏期講習 日本の特色ある地域・地図の見方・日本の国土・統計資料の読み方・日本の気候・食べ物はどこから・新聞の読み方とインターネットの利用など		
家庭学習ポイント	夏期講習では日本の地理について、特色ある気候の地域と地形などの復習、2学期の地方別、産業別の地理学習につながる予習内容との折衷になります。4年生の1年間を通して丁寧に、そして5年生の1学期まで続く地理学習ですが、今ひとつ学習のしかたがわからないまま苦手、となってしまうお子さんが多くいます。そうならないためにも、地理を単純な暗記科目ととらえるのではなく、産業や暮らしが地形やそれによる機構などに基づいている、という因果関係で理解する学習習慣をつけることが大切です。それには季節風や海流によって形作られる「気候」を理解すること、土壌の質や山河の有無などによって形作られる「地形」を理解することが必要です。地理の学習にはつねに白地図を併用し、上記の自然環境のもととなる産地や河川、海流などを書き込みながら自然環境を理解する、そのような学習習慣を、ぜひこの夏につけることを目指しましょう。		
課題の把握と解決策	チェック1	地図を見る基本技能が身についていますか？	チェック
	解決策	用途別に地図を便利に使うことを考え、縮尺の換算にも取り組んでみましょう	□
	チェック2	地図の縮尺に合わせ、長さ（距離）の計算ができていますか？	チェック
	解決策	間違いが多い場合は、単位の換算があやふやな可能性があります。算数の復習をしておきましょう	□
	チェック3	その土地の気候、自然環境とくらしを関連付けて記憶できていますか？	チェック
	解決策	地形を理解するためにも、社会の学習には地図帳と白地図を併用しましょう	□
	チェック4	理科と社会の知識を連携させて勉強できていますか？	チェック
	解決策	特に気候や地形の話題は理学的な考え方と社会の知識の組み合わせが有効です	□
	チェック5	「社会の勉強は面白くない」となっていませんか？	チェック
	解決策	日本地理のマンガや動画など、夏休みこそテキスト以外に活用できるものを考えてみましょう	□